

NO. 127

泉南走ろう会

連絡先
泉南スポーツ社
0724(83)4653

篠山マラソン大会に参加して

栄光とショックハートII

会長 遠健三

「とほほ、四時間二十八分二十二秒でゴールする。遂に四時間を切る事が出来なかった。これでは所詮、岸和田マラソンは駄目であったのだ。あの十キロの関門を通過すれば自分がか長い距離に強い。二十キロ、三十キロを頑張れば四時間を切る事が出来たのだ。そう思ったが、それもなすが、今まで八回参加した篠山マラソン。今回は最高の記録にてゴール。過去の三時間四十分台にてのゴールは夢の夢となった。「栄光とショック」とはほ泣けてくる。でも、今回のゴール程、苦斗と感激に満ちたゴールはなかった。ゴールし、お世話になりました。有難とう御座います」と完走賞のTシャツを頂くとき、思わず嗚咽する。ここで、石橋マラソン評論家、また、会員の皆様より、ボロの舌にいわれなくすむ。これ完走出来なかったならば走ろう会長の座より一ボケ老人に転

落するものである。栄光と挫折。

こんなじめじめした霧はもうよそう。さて、大会前日、七日の日に真鍋さんと大会参加に付いて打ち合わせする。「明日、行かぬばならない嫌やなあ、四三一九五走ろうと思うとどどとす。では、明日JR砂川新駅駅をよぶが初発に乗る。朝食は電車の中で食べる」と打ち合わせする。嫌やなあといいなかうも打上げは何処でするか、天王寺の百番がまた飯屋さんも心振にまてくると、心うきうき、マラソン挑戦への楽しみが一万何千人とのランニング、明日が楽しみだ。

当日大阪駅福知山線はランナーで一杯だ。調度前の席の人「私はここで篠山マラソン三回目であるが、二回とも駄目。完走はならず。でも今晚は篠山で友人千人と宴会二十人のうち完走は三人程だ。完走できないとボロの舌した。でもワイワイ、がやがやと楽しい」と話しをする。これも後でわかったのであるが、私が苦斗に満ち満ちたゴールレこのことが、実感としてわかった。完走できなかった人、出来なかった人も一生懸命ゴールを目指して走ったという事は立派だと思ふ。私は未登録だから、早く前の位置につかぬば。では開会式に行ってくる」と真鍋さんより早く会場に行く。真鍋さんより「では頑張ってください。五千、三千で通過、十キロ六十分で通過、これでは

駄目だ。こんな連中と一緒に走ってはいけ中間点の関門は危ない早く前に出ぬばと思うが、人、人で走れない。そのうち二人程に「おじいちゃん、元気ですなあ」と声をかけられる。「いやあ、それ程でもないです」と声を返しながら走る。こんな人と一緒に走るとこちらがたまらんと、そんな人を追い抜いて走る。

トップは折り返して来た。さすがは早い。それもその筈、私等より倍のスピードだ。こちらは四時間、あの人達は二時間だ。次々と折り返して来る。私も一生懸命に走る。真鍋さんは、もう折り返して来るだろう。反対方向を注意と見ながら走るが、折り返してこない。「まあよ、これは靴か何かのアクシダントがあり、私と同じまの直線上にあるかもしれぬ」と思ふ。うと笑えてく



早春の丹波路に1万300人が健脚
篠山ABCマラソン
三月十八日、丹波路の風景に、1万3000人のランナーが健脚を競った。写真は、スタート地点の風景。

る。「それは後で真鍋さんが怒るがものさ
 さいスピードで折り返したさうな、人々で
 私が気がつかないたのである。私も折り返
 す。すまじい、ワーワー張る。そこにランナーが多
 勢悄然と立ちつくす(しかいしんぼり中
 間点、関門通過なすのランナーだ。明
 日は我身でなく昨日(岸和田)は我身であ
 だ。かの人達、いと、哀れというもの思か
 なり、沿道のがんば、かんばの声援。私は
 懸命に走る。どうも足がおかしい、焼けつ
 ようだ。靴下が薄いのが失敗だ。焼鉄板の上
 を歩くようだ。何度もスピードを減らすか
 駄目だ。三十五キロの関門かううじて、通過三
 時間三十分だ。もう駄目だ。仮屋さん、真
 鍋さんはゴールで私を待っていてくれるであらう。
 もうタイムはどうでも良い。あの人達に一時
 間以上も待たせてもらうのはすまじい。気のど
 くだ。早くゴールせねばならぬ。「あんたは三
 十五キロからは強い、自分は三十五キロからは
 強いのだ、自己暗示も励ましも、今となつて
 はすべては空しい。会員の皆様のウエ走出
 来なければ、ボロクソンは私への肥やレ、バ
 ネとなる。私は頑張る。ひたすら走る。どん
 どん抜かれる。でも、これはなんだ。人口衛星ミ
 サイルが飛ぶ。この世に一部の競技ランナー
 ヤトランナー以外は何ら報いも望まず、
 老いも若きも万余の男女が走る。私は感動
 した。

ゴール手前二十米で仮屋さん、真鍋さんか

ら、「はい、かんばの声、お、私はゴ
 ルする。一時間以上も私を今か今かと待
 っていてくれたのだ。謝、私は感動する。
 さと、一路、天王寺の百番へ。そこで靴
 マランの精神とは何ぞや、無心の心。そ
 水に向けて、節制と精進、自己の可能性
 に挑む気高い心意気。岸和田、奈良、篠
 山とフルマランに挑戦された会員の皆様
 今年には都合ありて、マランに挑戦できな
 かったが日頃ひたむきにトレーニングされて
 おります、会員の皆様には敬意を表します。
 さらに健康に留意され一層の精進を願
 います。

さらばマランは走、春の賦である。

追伸

仮屋さん、遠いところ応援、有難う
 貴方のお陰で出走出来ました。感
 謝いたします。



新入会員紹介

仮屋喜一郎さん

阪南市尾崎町

TEL 71-7111

「完走」一途かなるサブスリー

真鍋康之

さあ、いよいよ、なげ山マランのスタートだ。
 スタート、命前、気持ち落ちつかせると
 めに先程結び直した靴ひもをまた結び
 直す。もう一度5kgとの通過タイムを反
 復する。

目標タイムはもうろンサブスリーの、重苦
 しい緊重を解き放つように、一発のロ
 砲が鳴った。体調を確かめるように走り
 出す。体が軽い。先日の干草利マランの疲
 れをとるため、一週間休養したのがよかつた
 ようだ。ストライドもどんとびてこのままゴ
 ールまで一気に走れそうに気がしてきた。10km
 予定していたタイムよりかなり早く通過して
 しま、「な」とオーバーペースか、と思ひ、ペ
 を落とそうとするが、すぐそのペースに戻さし
 まう。「ええい、このまま行なう」。今思えばこ
 こがポイントだった。無謀にもそのままの
 ペースで、ククあたり、山崎を上りきって
 しました。いつも慎重すぎるほどの自分が
 今日は何が違っていた。
 普通、心でと思つたレースでは適度の脚
 奮から自分の力以上のものを吐き出すこと
 あるが、それはゴールした後に、タイムを見
 て初めさわかることである。今は明らか
 に自分の力以上のペースで走っているのがわ
 かる。これはペース配分もあつたもので
 はない。もし、ペースを落としたら、サブスリ

「は無理やうな」けど、「このまま走り続けたら後半必ずバテるぞ」「いや」ひょっとして、このままいけるんじゃないか、うやうやか、うやうやか、そんなことを考えながら依然ハイペースで中間点までいった。タイムは「時間二分四分」よし、このままのペースで行こう。これで20分まで走ればサブスリーが思えてくる。30分よりはやく来いぞ。

しかしである。マランは思はずほど甘くはなかった。来るべきものがついに来た。折り返し手前頃より快く流れていた汗も止まり、足も急に重くなってきた。心配していたオーバーペースのつけが来た、当然である。

それでもなんとか、ペースを休とうと必死がえはるが足がいうことをきかない。

「ペースを落とそうか」この時はまだ余裕があった。

しかし、折り返しを回ったあたりから急に右脇腹が痛んできた。今までのペースのまん中を走っていたが、振っていくランナーの邪魔になうないよう、左端により、脇腹をつかみながら走る。走っているのがやっとだった。

去年のノクよりササヤマでのサブスリー達成を目指して頑張ってきたことを思うと情けなかつた。それでも仕方ない、自分が悪いのだ。目標は完走へかえざるを得なかった。まだ半分すぎ、あと一時間は、このまま走り続けねばならない。全身の力をかりしぼり、総本山峠を上り切ったあたりからいよいよ走るのが、つらくなってきた。

苦しくなると、いつもの癖で自分の脚を真ながら走る。こうしていると自分の意志とは別に機械的に脚が動いているような気がして、何故か一瞬苦しさから開放されるような気がする。35分過ぎから頭がホーツとしてきて、気を振くとますます走れなくなってきた。こんなことは初めてだった。

「歩きたい」ここまで走ったんだからもう歩こう。しかし、ゴールには飯屋さんを待っているだろう。おそろしく心配しているだろう。ここで歩くと、気持ちの張りが切れて、間違えなく収容車の人となってしまう。また市役所の仲間達のことも頭をかすめる。リタイヤすればあわゆる顔がない。絶対ゴールしたわけじゃない。あと20分、余りどうなるかわかんけど脚がもつてくれることを祈りながらとにかく走った。

今日のササヤマはこの間の千亀利マランで自己ベストを更新したこともあり、少々なめていたような気がする。しよせん今の自分にはサブスリーの実力はなかったことを改めて思い知らされた。そんな中、ただ一つ自信が持てたことは、知、95分を歩かずに走りきれたこと。

そして自分に勝つことが出来たこと。タイムは初めてバックしたけれど、得たものはそれ以上に大きいような気がする。……

ゴールまで50分足らず。ここまで運んできてくれた脚に感謝し、そして飯屋さんはじめ、応援してくれた仲間にも感謝しつつ、ゆるりゴールゲートをくぐった。

遠公長も千亀利マランの無念を晴すように、元気にゴールされ、三人で例のことく、ワンカップ大関を回し飲んで乾杯。気程事の死闘で疲れきった体にしみわたる酒が実にこちよかつた。

お知らせ

一例会日 三月二十二日午前九時

一集合場所 新家種河神社前広場

一コース 皆と相談して決める

一案件 イ、町石道クロスカントリーラリー参加方法について

ロ、五月二日開催の小豆島オリ

ーブマラン参加について申込み

メ切りは四月十日です。

参加御希望の方は四月五日までに参加費三、〇〇〇円、民宿予約

金二、〇〇〇円を添え走ろう会事務局泉南スホ社にて申し込み

込み手続を行って下さい。

用紙は事務局にあります。

民宿は一括して申込みます。

コースは五キロ、十キロ、ハーフがあります。

一備考イ、四月十二日例会日は町石道ク

ロスカントリー参加多数のため自まつレーニングといたし

